

# 令和3年度 穴生小学校学校経営方針

北九州市立穴生小学校 校長 弥永 和利

## <今年度の船出にあたって>

新型コロナウイルスの影響で、先行き不透明な今だからこそ、みんなで知恵を出し合って、工夫して、この難局をみんなで乗り越えていきましょう。

新しい船出です。私たちは、縁あって、この穴生小学校に集いました。永い永い時間の流れの中で、同じ国に、同じ時代に生まれて出会うことは、不思議な縁があると思えません。このとても不思議で、すてきな出会い。この出会いは、奇跡です！この出会いは、これから先、きっとたくさんの喜びや感動をもたらすに違いありません。まず、このことをより大切なこととしてとらえて、船出しましょう。

そして、私たちは、それぞれのよさを発揮し、心の温度を上げ、力を合わせて、大切な大切な穴生小の子どもたちを乗せて、安全に航海していきましょう。

行く手には、穏やかな波もあれば、荒波もあることでしょう。そのときは、  
“がんばる穴生小の職員の気持ちが、穴生小の子どもたちの未来を変える。”  
“重い荷物は、みんなで持ちましょう。”



“いいですか、あきらめたときが試合終了ですよ。”  
という思いを胸に秘め、私たちみんなで、子どものために前へ前へ進んでいきましょう。

でも、きつくなったときは、ひと休み、ふた休み。休んでいれば、きっと、次のいい風が吹きます。迷ったり、ぶれたりしそうなときは、“このことは、子どもにとってどうだろうか”と、子どもたちをど真ん中に据えていれば、大丈夫です。

みんなで心と力をあわせて、穴生小の子どもたちのために“いい仕事”をしていきましょう。

## 1 学校教育目標

心身ともに健康で、温かい思いやりの心を持ち、自ら学び自ら考える児童の育成

## 2 目指す児童像

- はげむ子（徳） 豊かな心を持ち、友だちのよさを認め、ともにはげむ子ども
- のびる子（体） ともに体をきたえ、たくましくのびようとする子ども
- すすむ子（知） すすんで学習し、よりよい自己を求めてやまない子ども

## ☆合言葉は、「いい あのお」

「いい」⇒いちばんに、いのちを大切にする。

「あ」⇒あいさつができ、最後まであきらめない。

「の」⇒のびていく。「お」⇒おもいやりの心をもって。

## 3 目指す学校像 子どもの力が伸びる学校

—学校が好き 先生が好き 友だちが好き 穴生の町が好き そして 自分が好き—

- 子どもにとって『行きたい学校』
- 保護者にとって『行かせたい学校』
- 教師にとって『働きたい学校』
- 地域住民にとって『行ってみたい学校』

## 4 目指す教師像

- 子どもに深い教育的愛情を持ち、教育に熱い情熱をもつ教師
- 子ども力を伸ばすために、日々の授業を大切にする教師
- 子どもに寄り添い、明るく接し、温かい言葉をかける教師
- 子どもの一人一人のよさや可能性を見つけ、引き出し、育てる教師
- 子どもとよく遊び、共に汗を流す教師

## 5 本年度の重点目標

### (1) 当たり前前が、当たり前前にできるように(本校の子どもたちの未来のために)

～「大人になっても、当たり前前が当たり前前にできる子どもを育てよう。」～

※<穴生中学校区スタンダード～「あたりまえのことがあたりまえにできる」児童生徒の育成～>

#### ① 穴生プロジェクトチームの「当たり前前チーム」(児童の「企画委員会」との連携)

- ・“共通の指導”の徹底(全職員が同じ考えの下で)。
- ・放送での呼びかけ、ポスター、しつこく粘り強い声掛けや指導、やり直しなど。
- ・「望ましい姿」が、当たり前前だという雰囲気、空気をつくる。

- 「望ましい姿」に向けて、日常的な指導と月ごとの重点的な指導を行う。  
(徹底できていなければ、次の月に持ち越す。)

<昨年度の月目標>  
 ・明るいいあいさつをしよう。  
 ・正しい言葉づかいをしよう。  
 ・チャイム席を守ろう。  
 ・手洗い・うがい・かん気・マスクの着用を心がけよう。  
 ・静かにそうじをしよう。  
 ・集中して授業に取り組もう。  
 ・友達のいいところをたくさん見つけよう。

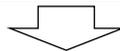
#### 望ましい姿(未来のために)

※「当たり前前が、当たり前前にできるように」

- ・元気に明るいいあいさつができる。
- ・もくもく掃除ができる。
- ・廊下を正しく歩く。
- ・雨の日は、工夫して静かに過ごす。
- ・教室移動のときは、椅子を入れる。
- ・正しい姿勢で学習ができる。
- ・学習中の言葉遣いがきちんとできる。
- ・給食の食器の後片付けがきちんとできる。
- ・給食の残食が少ない。
- ・チャイムとともに動く。
- ・ボールを大切に使う。
- ・遅刻をしないで学校に来る。 など

#### ② 令和2年度から見た三つの大きな課題の改善

- 課題1** 登校時間が守れない子どもが多い。(8:20までの登校)  
 ◎これがすべてと言っても過言ではない。このことが、課題②③と大きな関係がある。  
 ◎基本的な生活習慣の欠如。「早寝、早起き、朝ご飯」
- 課題2** 授業中に、うつ伏せしたり、肩ひじをついたりする子どもが多い。
- 課題3** その学年の既習学習の定着が十分でない子どもが多い。



- ・とにかく4月が鍵!まず登校時間の徹底!しつこく徹底!
- ・職員の「当たり前前チーム」と児童の「企画委員会」の連携、全職員で。  
 ※4月の早い時期に、具体的な改善の方策を練る!実行!

### (2) 令和3年度から、今後を見据えた取組

#### 取組1 持ち合い授業の推進

※令和4年度より小学校高学年から教科担任制の導入(国の方針)

- 学級の枠を超えた、チームで児童を育てる体制づくり  
 ・通年で実施 ・単元を限定して実施 ・学期を通して実施

	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国
第5学年	5	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2
第6学年	5	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2

- ・週当たりの授業時数が同じ、または、差が少ない教科を選ぶ。
- ・学年をまたいだ組み合わせにより、持ち合い授業を行う。
- ・持ち合う教科を増やすことにより、教材研究を行う教科数の軽減が図られる。
- ・それぞれの教員による、多面的な児童理解が図られる。

## 取組2 タブレット学習の推進

- 1人1台タブレットを活用した授業実践
- 「(仮称) タブレット学習部 or ICT部」の設置と研修

### (3) 道徳教育の推進 ☆ 本校の研究テーマ2年次(別途提案)

(穴生小の子どもたちの“心の耕し”の推進 ※心の温度を1度でも2度でも上げたい。)

- 道徳科の週1時間の授業を地道に、確実に
  - ・学級経営の基盤となる時間を積み重ねる。
  - ・“子どもも教師も変わる時間である”ことを意識する。
  - ・学級目標を大切に作る。
- ※絵に描いた餅ではなく“本気の学級目標”の設定、学級目標と道徳科との関連を図る。
- 学校教育全体で
  - ・様々な体験を“豊かな体験”に
  - ・例えば、算数科の授業をしながらも、道徳教育の視点が必ずあることの意識をもつ。

#### 【道徳科の授業で大切にしたいこと】 プロジェクトD5

- ①週一時間の道徳科の授業を地道にやっていく。 ※徐々に、確実に、つむいでいく。
- ②“待つ”心構えと“受け止める”心構えをいつも大切にしていく。
- ③「道徳科の資料は、教師が子どもに贈る“心のプレゼント”である。
- ④子どもの“よさ”を見抜いていく。  
“大切なことは、心の目で見ないと見えない。”(星の王子さま)
- ⑤道徳科の時間以外でも、日頃から、“いい話”“心が温まる話”をする時間をつくる。  
※子どもと教師の心が通じ合う瞬間の積み重ね。教師の体験談、失敗談、願い、思い  
読んだ本のこと、新聞記事、テレビで見たことなど

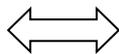
### (4) 新型コロナウイルス感染症の対応 ※気を緩めずに!

- 校内にウイルスを持ち込まない。校内に持ち込まれたウイルスを増幅させない。
- 「学校・幼稚園における新型コロナウイルス感染症対応保健マニュアル」・「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」～「学校の新しい生活様式」～・「授業実施上の留意点」を基に対応していく。
- 朝の「自宅で行う健康チェックリスト」の厳格な指導を行う。
- 職員、来校者の検温、健康チェックを徹底する。

○マスクの着用<思いやりのマスク>

○こまめな手洗い(30秒間)<思いやりの手洗い>

○三密(密接、密集、密閉)を避ける。特に<1~2mの思いやりの距離を保つ。>



【1~2mの思いやりの距離を保つ】

## 6 一人一人に寄り添う教育の推進

### ① 特別支援教育、特別な支援を要する児童の指導、不登校傾向の児童の児童

- 発達の段階や特性等に応じた教育を行うため、適切な個別の指導計画や個別の教育支援計画等の作成。
- ケース会議の設定。
- 関係機関につなぐ手順の明確化（ケース会議の場で審議）  
⇒特別支援コーディネーター（特別支援学級担任）、学級担任、教務主任、管理職、養護教諭
- 特別支援コーディネーターと各学級担任、特別支援教室（校内通級）との連携  
・1時間程度の取り出し指導、クールダウン（保健室など）、「コグトレ」の活用 など
- 保護者との連携、学校での様子の参観
- スクールカウンセラーとの連携

### ② 生徒指導

- いじめ問題は、「どの児童でも、どの学校にも起こりうるもの」。全教職員が「弱い者をいじめることは、人間として絶対に許さない」という共通理解に立ち、児童の発するサインを見逃さないようにする。※研修資料「いじめ問題をみすごさないために」の活用
- 毎月「心のアンケート」の確実な実施と日頃からの児童の行動観察を通して、いじめ等の早期発見・解消に組織的に取り組む。
- 事案が起こったら、まずじっくり聞く。「一方を聞いて、沙汰しない」  
※生徒指導の三機能  
1 自己決定の場を与える。 2 自己存在感を与える。 3 共感的な人間関係を育成す
- 「穴生スタンダード」の徹底

### ③ 人権教育

- 公教育の立場で全教育活動を通して「差別を見抜き、差別を許さず、差別をなくす」実践に努める。
- 鋭い人権感覚と指導力を培う。  
※「人権教育ハンドブック」「私たちと同和問題」の積極的な活用を図る。

### ④ 健康教育

- 学校事故・交通事故などの防止に努め、事故発生時の処理は迅速かつ誠意をもって当たる。（学校危機管理マニュアルの確認）
- 学校給食の指導の充実に努めるとともに、養護教諭や管理職等と連携して食育の推進に当たる。特に、食物アレルギー対応給食事故の防止（誤食の防止）に努める。  
※ 除去食等児童の確実な把握を行い、補欠の職員が入る場合には、確実に連絡を行う。  
※ 「食物アレルギー対応給食検討委員会」の実施。

## ☆7 その他（日常的に大切にしたいこと）

### ※ 新鮮な、ほうれんそう（報告・連絡・相談）

- ・とにかく、一人で抱え込まない。「重い荷物は、みんなで持つ」を合言葉に。
- ・悪い情報ほど、速くあげる。

### ① 日常的な危機意識の大切さ、その積み重ね。危機意識の究極は、子どもの命を守ること。

- 危機管理「さ・し・す・せ・そ」  
・さ～最悪のことを考えて      ・し～慎重に      ・す～素早く  
・せ～誠実に      ・そ～組織で
- なんととっても、**初期対応の大切さ！**  
・起こしたことより、対応のまずさが問われる。

- 「すぐにとべ！」・・・迷ったら、足を運ぶ、顔を見て話す
  - ・アルバート・メラビアンの法則 視覚55%、聴覚38%、言語7%
- ヒヤリ・ハット（氷山の一角）
- 保護者対応の基本は、「まず、しっかりと、じっくりと聞く」（寄りそう）
  - ⇒それだけで60%は解決

② 子どもの心を豊かにする教室環境づくり ※ 「かくれたカリキュラム」の大切さ

- “空気が人をつくり、人が空気をつくる。” 環境が子どもに働きかける影響は大きい。
  - ・教室環境—— ①新鮮、②アイデア、③変化（継続）
  - ・言語環境—— 人権感覚や言語感覚を働かせて整える。
- 最も大切なのは、机・椅子の整理整頓
  - ・荒れない学級の基盤は、ここにあり。
  - ・必ず、一時間一時間の最初に確認し、指摘したり、褒めたりする。
  - ・きまりなどの徹底。**（学級開きの“黄金の一週間”）**

③ 子どもが主役となる場づくり

- 子どものために学校があり、私たち教職員がいる。常に「子どもの側から」の視点を持ち、工夫改善を行う。
- 「させられる」のではなく、子どもが自分の生活を創り出していくように、自分で考える、自分で行動する場面を工夫する。 （※ おしゃかさまの指）
- 学校における様々な教育活動は、価値があるから位置付けられている。諸活動の事前・事後の指導、特に事後の振り返りの指導を大切にして価値を自覚させ、そこに感動や満足感、充実感が生まれるようにする。 ※指導と評価の一体化

④ 公務員として

- 「すべて職員は、全体の奉仕者として公共の利益のために勤務し、且つ、職務の遂行にあたっては、全力を挙げてこれに専念しなければならない。」地方公務員法第30条
- 体罰・言葉の暴力の禁止、交通法規の遵守（特に飲酒運転は厳に慎むこと）、個人情報保護、セクハラ、パワハラ等、信用失墜にあたる行為をしない、公務員として自覚ある行動

※ アンガーマネジメント

- ・ 怒りを、どう解消するか。 ・ 怒りと、上手く付き合う。
- ・ **怒りのピークは、最初の6秒。** 深呼吸などで、ぐっと抑える。
- ・ 一方的に怒ることは解決にならない。伝えたいことが伝わらない。いいことなし。
- ・ 怒りのNG
  - ▲ 「前から思っていたんだけど」→ そのことだけ叱ればいいのに。
  - ▲ 「何でね？」→ 相手をせめたてる。
  - ▲ 「いつもやん」「必ず」「絶対」→ 訳も十分に聞かず、決めつけてしまう。
- ・ 怒るは、自分の感情が先。叱るは、その人のために。（だから伝わる）

⑤ 共に成長できる職場に、明るい職場に

- 健康第一、体調がよくないときは、遠慮なく休みましょう。
  - ・ 体調が悪いときは、自分のことを優先に考えましょう。自分のことだけを考えましょう。家族のことも大切です。
  - ・ 「仕事の替わりはできるが、健康の替わりはできない。」
  - ☆ まず第一に、自分のこと、次に家族のこと、三番目に仕事のことを。
- いつでも校長室へ、どうぞ。
- 先輩の指導技術や得意技を伝承していきましょう。OJTを大切にしましょう。
  - ・ 特に若い先生は、いろいろな先生との出会いを大切にし、いろいろな先生のよさをたくさん見抜いて、“盗んで” いきましょう。

- お互いのよさを褒め、認め合ってください。お互いに感謝する職場にしましょう。  
「人は、人に支えられて生きている」「感謝に優る、能力なし」  
「ありがとう、〇〇さん」が、たくさん聞こえる職場にしましょう。
- 一人で抱え込まなく、声を出しましょう。(重い荷物は、みんなで持ちましょう。)
- 情報の共有を常に図りましょう。特に、子どものこと、保護者のことは、みんなで知っておきましょう。
- 挨拶は生活の中の潤滑油。お互いに声をかけ合い、明るい職場にしましょう。※ 雑談のすゝめ

・「ありがとう」と「ごめんなさい」は、誰よりも先に。  
・「何かすることはありますか。」「私がしましょうか。」



⑥ 業務改善、ワークライフバランスの意識を大切に ※みなさんのアイデアを！

- 学校行事等の見直し。
- 職員の1カ月の時間外勤務時間が、45時間を超えない。
- 水曜日は、18:00までに全職員退校を目指す。18:00全校消灯の実施。  
合言葉は、「水曜日、6時だよ！全員退校！」
- “持ち帰り仕事”をどのように減らしていくか。工夫と覚悟。  
脱100点主義、70~80点で。使い回し、持ち合い授業、一部教科担任制など

- 私たち教師は、まず「授業で勝負」です。
  - ・ 授業を通して子どもと向き合う時間を大切にしましょう。
  - ・ 1年間の授業時間数は、約1000時間あります。この1000時間をどのように子どもと向き合ってきたか、これが大切だと思います。1000時間を無駄にはできません。
- 学級目標が絵に描いた餅ではなく、「本気の学級目標」を。
  - ・ 学級目標をプラスの視点で常に意識し、子どもたちのよさと重ねていくことが大切です。
- うまくいかないこともあります。失敗もあります。
  - ・ 「うまくいかなかった要因は何か。」これをしっかりと捉えれば、絶対に次につながります。
  - ・ その要因は、「子どもなのか、保護者なのか、いや教師としての自分なのか」と、思い巡らすことが大切です。
  - ・ 特に、教師としての自分の指導を振り返り、点検できたときは、新しい自分に出会えると思います。うまくいかなかった分岐点(ターニングポイント)が、きっとあるはず。
- 「かくれたカリキュラム」を大切にしましょう。
  - ・ これは、教師が意図する、しないに関わらず、学校生活の中で、子ども自ら学びとっていく全ての事柄です。
  - ・ 「先生がこうだから、こうしていいんだ」という子どもの思考が生まれると赤信号です。
- 「教師たる前に、社会人たれ」
  - ・ 社会人の基本は、「時を守り、礼を尽くし、場を浄める」です。  
そして、組織の大切な一員としての身構え(同僚性)
- みんなで「徹底し、やり切る」ことの大切さ。
  - ・ (例) 廊下通行、机の整理整頓、あいさつ、掃除など

学びへの意欲を喚起する集団づくりのために

「わかる授業」づくり  
ポイント1「学び合いの基盤」

➡

学習ルールが  
徹底した学級

かくれたカリキュラム

意図する・しないに関わらず、学校生活の中で、子ども自ら学びとっていく全ての事柄

構成: 学校・学級の場の在り方や雰囲気

① 場面  
例) 教室環境・掲示物、忘れ物、授業時の立ち位置・声

② どのように  
例) 子どもの反応、話の長さ、教師の言葉づかい

(は)か(れ)か(れ)か(れ)た(掲)示(物)

そろっていい机、いす

「かくれたカリキュラム」構築の視点(イ)ド掲載の事例より